意見交換会開催結果概要

１　開催日時　　平成29年11月28日（火）

２　時　　間　　開会　午後７時　～　閉会　午後８時24分

３　場　　所　　金沢市消防局　２階　防災センター

４　参加人数　　21名

５　出席議員　　黒沢和規議長、秋島　太副議長、
喜多浩一総務常任委員長、
小間井大祐総務常任副委員長、
清水邦彦総務常任委員、森一敏総務常任委員、
森尾嘉昭総務常任委員、澤飯英樹総務常任委員、
福田太郎総務常任委員、
麦田　徹市民福祉常任委員長、
坂本泰広市民福祉常任副委員長、
熊野盛夫市民福祉常任委員、大桑初枝市民福祉常任委員、
久保洋子市民福祉常任委員、角野恵美子市民福祉常任委員、
安達　前市民福祉常任委員、
前　誠一建設企業常任委員長、
中川俊一建設企業常任副委員長、
下沢広伸建設企業常任委員、宮崎雅人建設企業常任委員、
中西利雄建設企業常任委員、
高　　誠経済環境常任委員長、
源野和清文教消防常任委員長、
松村理治議会運営委員長
（オブザーバー議員）
松井　隆議員、広田美代議員、長坂星児議員、小阪栄進議員、
高岩勝人議員、野本正人議員、小林　誠議員、
山本由起子議員、玉野　道議員、横越　徹議員

６　次　　第　　別紙のとおり

７　結果概要　　以下のとおり

喜多浩一総務常任委員長の進行のもと、黒沢和規議長の開会挨拶に引き続き、前誠一建設企業常任委員長から平成29年度金沢市議会６月定例月議会及び９月定例月議会報告を行った。次に、麦田徹市民福祉常任委員長から意見交換会のテーマについて説明を行った後、テーマに関して専門家の意見発表を行い、専門家と意見交換を行った。次に市民とテーマに関する意見交換を行った後、秋島太副議長の閉会挨拶で閉会した。

１．開　　会

【喜多浩一総務常任委員長】

定刻となりましたので、ただいまより金沢市議会意見交換会を開催いたします。本日の司会進行を務めさせていただきます、総務常任委員会委員長の喜多浩一でございます。よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、黒沢和規金沢市議会議長から皆様方に御挨拶を申し上げます。

【黒沢和規議長】

本日は、金沢市議会意見交換会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。この意見交換会ですが、平成26年度より実施しているもので、今回で16回目の開催となります。

さて、本日の意見交換会のテーマは、「人口減少社会に対応するためのまちづくり」についてであります。現在、出生率の低下などを背景に、日本は世界に類を見ない人口減少社会に突入しており、金沢市においても将来的に人口は減少していくと見込まれています。この人口減少は、本市の財政や福祉、まちづくりなどさまざまな分野において大きな影響を及ぼすことが予想されることから、本日は、人口減少社会に対応するためにどのようなまちづくりが求められるか、専門家などの方々から忌憚のない御意見をいただくとともに、今日の議論をお聞きに集まられた皆様の御意見をいただくことで、議会での議論の参考にさせていただきたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

【喜多浩一総務常任委員長】

次に、今回の出席者の紹介に移りますが、本日は、意見交換の時間を多く取りたいと考えており、大変恐縮ですが、議員の御紹介は事前に配布してあります議員名簿にかえさせていただきますことを御容赦願います。なお、オブザーバー議員はお名前の記載がないこともあわせて御承知願います。

次に、本日の意見交換会のために、６名の専門家などの皆様に御参加をいただいておりますので、御紹介させていただきます。

金沢大学人間社会学域教授の佐無田光様です。（拍手）

金沢大学理工研究域環境デザイン学系教授の中山晶一朗様です。（拍手）

株式会社ワードローブ代表取締役で印象美プロデューサーの小西敦子様です。（拍手）

株式会社カラフルカンパニー本社編集部メディア制作課主任で金沢情報副編集長の中屋麻衣子様です。（拍手）

株式会社日本海コンサルタント専務取締役の埒正浩様です。（拍手）

陶芸家で金沢市に移住された中田雄一様です。（拍手）

次に、本日の意見交換会について簡単に御説明いたします。

この意見交換会は金沢市議会が主催するもので、市民の代表として議会に出ている議員と市民の皆様との意見交換を通じ、金沢市への要望や意見を届けようとするもので、金沢市の事業を説明する場でないことをまずは御了承願いたいと思います。

今回の意見交換会についてですが、本市を初め日本全国において喫緊の課題となっている「人口減少社会に対応するためのまちづくり」をテーマとしております。人口減少社会への対応はさまざまな分野からのアプローチが必要となることから、総務、市民福祉、建設企業の３つの常任委員会による合同開催の形式をとっており、幅広い視点から皆様の御意見をお聞きしたいと考えております。

それでは、受付で配布しました資料のうち、「意見交換会」と表題に書いてある資料をごらんください。

この後の進行についてですが、まず議会報告として、平成29年度金沢市議会６月定例月議会と９月定例月議会について御説明いたします。続いて、本日のテーマについて簡単に御説明させていただいた後、今ほど御紹介いたしました専門家の皆様から御意見をいただき、その内容を踏まえた意見交換を考えております。

２．議会からの報告

・平成29年度金沢市議会６月定例月議会報告

・平成29年度金沢市議会９月定例月議会報告

【喜多浩一総務常任委員長】

それでは、平成29年度金沢市議会６月定例月議会及び９月定例月議会につきまして、建設企業常任委員会委員長の前誠一より御報告いたします。

〔前誠一建設企業常任委員長が平成29年度金沢市議会６月定例月議会及び９月定例月議会報告について別紙のとおり説明〕

３．テーマ（人口減少社会に対応するためのまちづくり）に関する意見交換

・テーマについての説明

【喜多浩一総務常任委員長】

続きまして、本日のテーマに移ります。

テーマについては、市民福祉常任委員会委員長の麦田徹より御説明いたします。

〔麦田徹市民福祉常任委員長がテーマについて別紙のとおり説明〕

・テーマに対する専門家などの意見発表

【喜多浩一総務常任委員長】

それでは、専門家の皆様からテーマに対する御意見を順にお聞きしたいと思います。

佐無田先生、よろしくお願いいたします。

【佐無田光金沢大学人間社会学域教授】

金沢大学の佐無田と申します。よろしくお願いいたします。

私の専門分野は地域経済学になりますが、基礎になるような基本的なデータで、実態を確認する形で少し話題提供をさせていただければと思います。

データから話したいと思いますが、国勢調査のデータを使って５年前も同じことをやっているんですけれども、人口減少社会という話でしたので人口動態についてちょっと確認しておこうと思います。人口動態のうち、転出入の変動の変化が激しいもので、そちらをまずは確認しておくというものであります。この５年間、2010年から2015年にかけては15歳以上で5,833人の転入超過であります。

次のスライドと比べると、転入超過の数がふえてます。これによって少し人口減少の度合いは緩やかになってるはずなんですが、どこが大きく変わったかというと、大体通学のところで大きく入ってきて就業者のところでマイナスだったんですが、この就業者のところの転入と転出の関係で言うと、転入超過に変わりました。これは就業者――働く人たちが金沢から出ていく人たちのほうが多かったのが、少しこの５年間で逆転したという状況になります。

次のスライドは年齢別に見たグラフです。皆さんよく御存じのように、20歳から24歳までの大学生のところでぐっと入ってくる人が多くて、上のほうに折れ線グラフがありますが、その後、卒業後とともにマイナスになるという、転出超過になるというところが従来の傾向だったんですけれども、次のスライドと比べてもらうと、ちょっとデータの分け方が少しだけ違いますが基本的には同じ構造をしていて、25歳から34歳までの働き始めて10年くらいの若者世代が実は転出超過で、卒業時点だけではなくて、卒業後に働いて、若くて、どこで能力形成するかという時期に結構金沢を出るという人が多いところが問題点だったんです。これも、一つ前のスライドに戻って確認すると、データで言うと少し緩和しました。30代の人たちが金沢に残る率がふえたということが言えると思います。

次は業種別です。業種別で見ていただくと、製造業は金沢から出ていく人が業種的には多くて、医療・福祉も少しマイナスなんですが、宿泊・飲食がプラスで多い。それから運輸と卸・小売業もプラスになっています。

次のスライドで５年前と比べますと、大きく変わったのは卸・小売業のところですね。30代の就業者で卸・小売業の人たち、この辺が金沢に比較的残るというか､金沢で仕事を持つように変わったというのがこの５年間での変化と言えます。

次、どこの地域から入ってきて、どこの地域に出ていくかというデータですが、これも５年前と比べてもらうと、５年前は大体、能登と富山、福井から入ってきて、そして首都圏と東海・中部に出ていくという構造でした。あと、周辺の野々市とかに出ていく傾向があったんですけれども、５年後にどう変わったかと言いますと、県内、県外ともに転入超過になりまして、基本的な構造は大きく変わってないのですが、首都圏への転出超過や白山、野々市への転出超過の比重が減りました。減って、能登、南加賀から入ってくる転入超過分はそのままふえているという状況があって、金沢に人が集まる傾向が基本的にはあるということです。

最後は合計特殊出生率ですが、これは全国的に変化があって上がってますが、金沢も上がっております。

まとめでありますが、30代、就業者の転出超過、それから周辺市町、首都圏への転出超過、卸・小売業の転出超過は、いずれもこの５年間で緩和ないしは逆転した一方で、能登や加賀からの人口流入も強まっています。この点はちょっと問題点で、実は能登や加賀が衰退すると、時間差で入ってくる金沢にも影響していくという問題があって、一極集中は必ずしもよいことだけではありません。この点はちょっと注意が必要だと思います。

最終的には、今はもう人口減少というふうに言ってるんですが、もはや人手不足のほうがはるかに問題で､金沢への集積構造が持続するかどうかも､創業の場、資金調達、人材ネットワーク、取引の機会等、都市型のビジネス、それも非営利のビジネスなども含めて多数生まれるかどうかというあたりで、このトレンドが継続できるかどうかにかかってるんじゃないかなと思います。

簡単ですが、最初の問題提起とさせていただきます。

【喜多浩一総務常任委員長】

佐無田先生、ありがとうございました。

次に、中山先生、よろしくお願いいたします。

【中山晶一朗金沢大学理工研究域環境デザイン学系教授】

金沢大学の中山です。よろしくお願いします。

交通や都市を専門にしております。今は理工になってますけれども、工学部出身ですので、そういう立場から少しお話しさせていただきます。きょうのお話なんですけれども、新しい交通について御検討されているということで、交通が専門ですので、その話を少ししたいと思っております。

それで、人口減少社会なんですけれども、いずれのまちもそういう課題に直面してると思うのですけれども、金沢のまちとしては、皆様の御案内のとおり北陸新幹線が開通しまして、このあたりは非常に考えるべきものの一つかなと思って

います。たくさんの方が観光客でやってこられており、私は、18番のバスに結構乗るんですけれども、本当は広坂や本多町でおりなきゃいけないのに、間違ってずっと乗って、あっ、しまったという人をちょくちょく見かけます。バスに乗るというのが、ほかのまちから来た人には大変なのかなというのはよく見かけるところです。あと、並行在来線のＩＲいしかわ鉄道になったりしましたので、金沢のまちの鉄道がＩＲいしかわ鉄道、ＪＲ、新幹線、北陸鉄道で、バスが北鉄バスや西日本ジェイアールバスということで、いろんな主体が混在しています。それで北陸鉄道がほかの鉄道とつながってないということで、なかなかネットワークとして機能していない、相互乗り入れができていないという状況も一つ金沢の特徴としてあるのかなと思います。そうしたことも、人口減少社会で考慮すべきなんですけれども、こうした金沢の特色も考慮していかないといけないのかなと思っています。

新しい交通の御検討でＢＲＴやＬＲＴという話がちょっと出ていますけれども、ＬＲＴは新型の路面電車ということで、スライドに書いてあるとおり路面電車なんですけれども、新型は床が低いので乗りおりがしやすいということと、自動車よりもたくさんの人を乗せますので環境に優しいという特徴があります。

北陸のほうでは、皆様御案内のとおりで、富山ではＬＲＴが非常に着目されており、これを中心にまちづくりも、コンパクトシティーとも呼ばれていますけれども、非常に着目されて、全国からたくさんの人が見学に来ているということで、まちの活性化とか地価の上昇にもつながっているということです。富山だけということでもなく、福井のほうも、ＬＲＴと規模はちょっと違うかと思うのですけれども、えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れが始まったり、駅前まで延びたりして非常に利便性が高まっておりまして、相互乗り入れによって利用者がふえているということと、あと新幹線に合わせて駅前も非常に工事しており、アオッサができたりとかいろいろしてますので、まち全体としてはかなり力を入れている、集中投資してるという感想を持っております。

次、ＢＲＴは日本語に訳すとなかなか難しいんですけれども、バス・ラピッドということなのでバス高速輸送システムとも呼ばれています。こちらの写真にありますように、基本的にはバスなんですけれども、連節バスとかを導入して速く走らせるということで、北陸では新潟が導入しました。基幹バスと呼んでいますけれども、バス停を少し飛ばしたりしながら速く行けるバス、基幹となるバスを設定するとともに、そこに接続するフィーダーバスとか支線バスで、２つの階層のバスで走らせております。皆さんもよくお聞きになってるかもしれませんけれども、導入時にちょっとふぐあいとかもあったので、なかなか成功とまでは言いにくい部分があると思ってます。ほかの市のことをちょっと、こういうふうに言っていいのかわかりませんが、そういう状況です。

このように北陸でも新しい交通が導入されておりますので、そうした事例から

学んでいく必要があると思っていますけれども、ＬＲＴ――路面電車は、富山、福井でかなり成功しているのかなと思います。ネットワークとか相互乗り入れの効果が大きいことや、やはり線路があると、物があるということで、それがまちに対する波及とか力へ結びついているというふうに思います。ＢＲＴは、新潟の事例を見ますと、やはりちょっと乗りかえが出てくることと、まちなかなのでそこまで高速化できなかったということが課題になっていると思います。こうしたことを考えますと、やはり覚悟を持ってきちんと投資できたかどうか、このあたりにも成功かそうでないのかの部分があるような気もしております。

ＬＲＴのメリットとしましては、まちのシンボルになる、鉄道のほうがやっぱりバスより乗りやすいということ、まちの活性化にもつながるということで、公共交通でまちへ来た人のほうが滞在時間が長くて消費にも結びついているという研究もあります。あと、今、北陸鉄道がちょっと途切れてますので、それをつなげることによるネットワーク化も非常に大きいのではないかと思います。それで、ＬＲＴを導入した場合、そこを走っていったバスを郊外に回すことができるとすると、郊外部分の足になって利便性も向上するというふうにも思われます。あと、最初に言いました環境や、乗りおりしやすいということがあります。

でも課題もたくさんありまして、一番の大きな課題は費用だということで、かなりお金がかかります。あと地下、駅前を地下にするのかとか地下の埋設物などの問題もあります。次は交通混雑ということで、２車線が１車線になったりしますと道路を通れる容量が半分になりますので、そういった部分も問題になります。ただ、混雑すると迂回が発生しますので、流入規制するほどまでにはならないのではないかというふうに思っております。あと、最後は、合意形成をするのがなかなか困難かなと思います。

研究室でもこうしたことについて検討をしておりまして、少し検討した結果、若干だけ紹介しますと、野町から県庁のほうまでＬＲＴにした場合どうなるかということなんですが、着目したかったのは自動車の平均所要時間――トリップということで、短い区間を走る人や長い区間を走る人がいるんですけれども、自動車の平均の所要時間は、ＬＲＴ導入によってちょっと減少する、自動車利用者から公共交通へ移行するので減少するということが出ました。これが絶対正しいというわけではありませんし、混雑するところは混雑しますし、すくところはすくので、まち全体として混むかというと、そうでもない可能性があるということを検討しているところです。

次の動画はイメージとしてはこういう感じで、学生につくってもらっており、作成途中なのでまだまだ改善の余地はあるんですけれども、こういうふうな感じでＬＲＴを走らすということができるかと思います。

〔動画を視聴〕

最後、まとめにつきましては、やはり車中心の社会で、車を捨て去ることはち

ょっと難しいかと思うんですけれども、車に頼り過ぎない、車を賢く使おうとする。郊外同士は車で行くしかありませんので賢く使う。そうしたまちを考えないといけませんけれども、一方で、高齢者など交通弱者の方もおられますので、車を使わずに暮らせることも重要かと思っています。ＢＲＴの話は余りできませんでしたけれども、どういうふうなＢＲＴにするかだと思いますが、余り変化がなければただのバスということになりますし、幹線、支線に分けますと乗りかえが必要ということで、なかなかメリットが見出しにくいかと思います。ＬＲＴはいろいろなメリットがありますけれども、課題もあります。まち全体の長期的な観点からは、立地適正化で集約することを考えますと、基本となる鉄軌道、線路とバス路線に集約していかないといけないと思ったときに、この鉄道ネットワークへの集約が一番の根本、次がバス路線というふうになろうかと思っております。

若干時間がオーバーしまして申しわけございませんが、以上で終わります。

【喜多浩一総務常任委員長】

ありがとうございました。

続きまして、小西様、よろしくお願いいたします。

【小西敦子株式会社ワードローブ代表取締役】

株式会社ワードローブの小西と申します。どうぞ皆さん、よろしくお願いいたします。

私は、今回は、婚活というテーマから少子化対策について皆様に御案内をさせていただきたいと思います。

先般、10月と11月にかけまして、金沢市のこども政策推進課で平成29年度かなざわ縁結び支援事業が行われました。これはいわゆる世間的に言うところの婚活事業なわけですけれども、今回、私が企画運営と委託団体の代表という立場できょうは皆様にお話をさせていただきたいと思います。今回は、「ずっと金沢で男と女　～30才からの“２人主役”の人生学」という事業を行いました。この事業の経緯と成果と、そして未来について御説明させていただきます。

皆様のお手元にレジュメをお配りさせていただいているんですけれども、この２枚のレジュメをまずはごらんをいただきたいと思うんですが、この事業に関しまして少子化対策と考えたときに、普通は数を考えるんですね。少子化というのは、どうしたらもっと数をふやしていけるだろうかということを考えるんですけれども、私は今回は数ではなくて質を考えたいというふうに思いました。

それはどういうことかというと、これから子どもは金沢市を背負っていく、そして支えていく存在なわけですから、子どもたちの質を高めるというのは、表現が余りよろしくないかもしれませんが、学力を上げるという意味ではなくて、例えば情緒豊かな子どもであったり、多様性が認められる子どもであったり、共感力を持っている子どもであったり、そういった質の高いということを指しますが、お子さんを育てていくための一番の早道は何かと考えると、親御さんの人間力を

上げていくということが一番大切なんじゃないかなというふうに私は考えました。
　そこで、これまで婚活という事業は数にフォーカスをされましたけれども、ここは質にフォーカスをして皆さんにアプローチしていこうというふうに思いました。今までの婚活事業は出会いの場を提供するというものでした。それは金沢市に限らず全国がそうです。出会いの場を提供する。だけれども、今回は学びの場を行政が提供するというものに考えをシフトしていこうというふうに思いました。つまりはどういうことかというと、その場で出会った人たちが自分の将来の伴侶になるということではなくて、学びの仲間であるというところからスタートをしていこうというふうに思ったわけです。
　どうしてこういった考えに至ったかといいますと、学びの場というのが大切なのは、学校と同じで参加者のレベルがとても大切なんですね。学校も学業のレベルによって学校が違うように、やはり同じレベル同士の方々が出会ったときに学びは深まるという考え方です。そうしたときに、行政主導の婚活というのは税金が投入されていますので、参加料が手ごろなわけなんですよね。そうすると、いろんな方々が参加しやすいという環境をつくってしまう。いろんな方々が参加しやすくて間口の広がるということは、レベル感がまちまちになってしまうということです。つまりは、遅刻をしてきても「きょう遅刻をします」と電話をしない、または、初めて出会う方と一緒にきょうは参加するのにジャージにクロックスという、そういう社会性のもとでお越しになられる方もいらっしゃれば、病院のお医者さんというような方々もいらっしゃるわけです。そういった方々が同じ場で出会って一緒に学びを深めていこうという仲間になろうというふうに考えると、それはちょっと考えにくいなというふうに思いました。
　そこで、私が考えたのは、対象者をまず30歳以上に絞りました。そしてカリキュラムは、文化的で、知的で、洗練のニュアンスを含む内容にしました。そうすることによって、参加料が全ての講座を参加しても6,500円という安価にもかかわらず、参加する方々が絞られるという状況をつくります。これは今回、文化レベルの高いようなイベントをしましたけれども、これはコントロールが可能です。ですから、間口をどのあたりに絞っていくかということは商売と同じで、ターゲットを絞って対象者を絞る。そうすることによって成果が上りやすい状況をつくろうと思いました。
　結果、どういったことが起きたか。皆さんには２枚目にお配りしたものに成果を書かせていただいておりますので、ちょっとごらんいただきたいと思います。
　募集方法としましては、まずリーフレットを配布しました。皆様のお手元にもお配りしてあるものと同じです。下にお配りしたそのリーフレットの配布場所が書いてあります。また、金沢市のホームページ、フェイスブック、「金沢情報」の掲載、知人の紹介というところなんですが、横に書いてある数字は、その流れの中でこの事業に応募をしてこられた方の人数です。ですので、フェイスブックか

らこの情報を知った方が一番多いということです。

募集期間は、2017年８月31日から９月25日までの26日間。結構短い期間でしたけれども、この間の応募総数は、男性が10名、女性が27名でした。男性10名、女性10名限定で募集をかけましたので、ぎりぎり男性もこの応募総数にはまってよかったと思っています。動員は一切かけてないです。本当に自主的に応募してこられた方だけの人数です。

平均年齢なんですけれども、男性が34歳から58歳、平均41.8歳です。そして女性は30歳から45歳、平均年齢37.5歳。そして男女の平均が39.7歳という大人の方々がお集まりになられるという状況をつくることができました。

皆さん、ちょっとイメージしていただきたいんですけれども、39.7歳の男女が20名集まったときに全員が独身というシチュエーションって、普通あり得ないですよね。そうしたときに何が起きるかといったならば、ふだんこの方は、例えばみんなと集まったときに、「何で結婚しないの？」とか「そろそろ結婚すればいいのに」という面倒くさいことを人たちに言われている。やっぱり心にいささかの傷を持っている方々がお集まりになってらっしゃるわけです。ですから、その20名が、全員が、みんなが独身で同じ傷、同じ嫌だなと思うようなシチュエーションを持っている。そういう方々が集まったときに共感意識のもとで、やはり仲間になりやすかったり、一旦自分の心を素朴に、自然に、フラットに整えて、仲間同士学びを深めていこうという環境をつくることができるということです。

参加者の職業なんですけれども、10名の職業はここにずらりと書いてあるとおり、社会的に非常に活躍していらっしゃる方々が集まっている。そして集まっていらっしゃる方々は、こんなにいろいろと社会で活躍されているすてきな方々も、私と同じで結婚をされてない方がいらっしゃるんだという安心感のもとで学びを深めることができたなというふうに思っています。

リーフレットを少しごらんいただきたいと思います。どのような内容を行ったのかということです。口頭で少し御紹介させていただきますと、１回目は「２人主役で生きるための、印象美コミュニケーション講座」を行いました。男性と女性がともにお互いが主役になって人間関係の育み方を学ぶという内容を、私はコミュニケーションのトレーナーですので、ここで皆様に趣旨とともに御紹介させていただきました。

２回目は女性だけの講座でした。「男をしあわせにする女のための、男目線で喜ばれるメイクアップ」です。自己満足のためのメイクアップではなくて、社会の方々を喜ばせるため、また幸せにするためのメイクアップという客観性のあるメイクアップをお届けいたしました。

３回目は男性だけの講座です。「女をしあわせにする男のための、モダン・ジェントルマン・スタイル講座」です。この中では、ただ装いのテクニックを学ぶのではなく、男性として社会の中で、世の中のこのまちの経済効果に寄与してい

くための男となるためにはどうしたらいいのかということであったり、または女性を幸せにするために自分自身のあり方というものが、いかに素朴な自分で勝負をしていく、その勇気を持てるのかという、少し哲学的な内容ではありましたけれども、非常によかったという評価を参加者からいただきました。

４回目の講座は男女合同での「金沢を創った男と女、『利家とまつ』パートナーシップの歴史を学ぶワークショップ」です。利家とまつという存在がどのような夫婦関係を営みながら、そして今の男と女の関係に照らし合わせたときにどういう関係性を築いていたのかということをみんなで話し合うワークショップを行いました。この中で、自分自身たちがこれから先、結婚したときにどんな夫婦生活を営んでいきたいのかということを皆さんで一緒に考えていただく、そういう機会になったと思います。

そして最後は、晩餐会ということで皆さんで懇親会を行いました。このときにも手を差し伸べて「おつき合いからお願いします」というような、そういう告白タイムは一切なく、皆さん本当に主体的に全員が最後は円陣を組んで、そしてＬＩＮＥの交換をし、第１回金澤倖学メンバーというタイトルのＬＩＮＥグループで仲間になりました。この先、お隣に座ってらっしゃる中屋さんは実はその倖学メンバーの１期生ですけれども、ここからその方々がいかに学びを深め、仲間たちと一緒にこの金沢を盛り上げていってくれる、その学びの形をつくっていってくれるか、私はとても期待しております。

最後にまとめとなります。未来への強い意識ということを、この「金澤倖学」、新しい造語をつくらせていただきましたけれども、幸せの学問です。「競争から、共創へ。」ということです。今回、受講者の最後のアンケートで一つ心に残った言葉がありました。それは何かというと、「これまでの婚活は、参加者がライバルだった。だけれども、この倖学は参加者同士が仲間になれる」という言葉でした。まさにそのとおりだなというふうに思いました。今まで競争という中で婚活が行われてきた。なぜならば、最初のこの形をつくったのが1980年代の「ねるとん紅鯨団」というバブルの全盛期の競争の世代だったわけです。そのときにつくられた状態が今もなお続けられているということは、やはりおかしいと思う。であるならば、この金沢という土地から倖学、ともにつくり上げる新しい共創の時代に、この金沢から私たちは発信していくことができるのではないかなというふうに考えて、今回はこの「金澤倖学」というものを皆様に御提案をさせていただき、事業を終了させていただいたことを御報告させていただきます。

【喜多浩一総務常任委員長】

ありがとうございました。

それでは、続きまして、中屋様、よろしくお願いします。

【中屋麻衣子株式会社カラフルカンパニー本社編集部メディア制作課主任】

御紹介にあずかりました株式会社カラフルカンパニーの中屋と申します。よろ

しくお願いいたします。

今のお話にも出てきたとおり、私がなぜここに呼んでいただいたかといいますと、前に「金沢情報」という弊社が発行しております情報誌のほうで小西さんの倖学のプロジェクトを御紹介させていただいたという御縁がありまして、実際に私が参加していたということでこちらに呼んでいただきました。

それとカラフルカンパニーという会社なんですけれども、もしかしたら皆さん見ていただいているかもしれないです。「金沢情報」というふうに情報誌を発行しております。また、ブライダル情報誌「結婚ＳＡＮＫＡ」という結婚情報誌、そこから派生して「ココカラ。縁結び」という、いわゆる結婚相談所なんですけれども、もうちょっとライトな感じの縁結び事業をしております。ということで、実際に結婚を考えていらっしゃる方も弊社のほうに来ていただいてお話を伺ってるという、リアルな意見をいただいてるという立場にいる者です。その中で、実際に弊社のほうに結婚したいと考えている方の声をお伝えしたいなと思っております。

皆さん御存じかと思いますが、石川県の未婚率の推移データによりますと、石川県内の未婚率は年々やっぱり上昇しておりまして、30代後半になりますと、男性の約３人に１人、女性の５人に１人が未婚というデータが出ております。

実際に弊社の「ココカラ。縁結び」にも興味を持たれて来ていただく方が多いんですけれども、そういった方の結婚したくてもできない大きな理由というのが、ほとんどの方が言われるのは、結婚したいと思う相手に出会えないということなんですね。これがなぜかといいますと、いろいろ話を聞いているうちにわかるのは、女性は30代以上の方が、やっぱり来ていただく方が多いんです。そういった方がどういった方とのマッチングを希望しているかというと同世代、30代、40代の男性をマッチングしたいと考えてらっしゃる。対して、男性は50代、60代の方がすごく多いです。でも、50代、60代の方というのは、20代の若い女性とどうしてもマッチングしたいという希望を持ってらっしゃいます。ここでずれが生じるわけですね。これはでも、人間の本能なのでしようがないと思います。

ただ、これは何でかというと、やっぱり女性の社会進出が進んで、20代の女性の方は今は仕事に打ち込みたい、結婚はその後でいいやというふうに考える方――私も含めですけれども、そう考える方がすごくふえている。結果、結婚適齢期というものを逃していってどんどん晩婚化していくのが現状かと思うんですけれども。そうなるとどんどん現状が後退化、適齢期が後退化していくことになるんです。

その打開案として私がちょっと提案したい、私があったらいいなと思うことなですけれども、10代のころから将来をどうやって生きていくべきかという、今よく耳にする言葉かと思いますけれども、自分の将来についてキャリアプラン、ライフプランというのをしっかりと考えていく指導が必要なんじゃないかなと思っ

ています。これからの世代に対してキャリアプラン、ライフプランを指導していくことによって、私は20代のうちに子どもを産みたいからということを10代のうちから考えておけば、仕事をしたいか子どもを産みたいかという考え方をどんどん、今はとりあえずいいやという考えがなくなるということですね。ということを進めていけたらいいんじゃないかなと思ってます。

ただ、その一方で、そもそも結婚、出産に興味がないという方もすごく多いです。それはなぜかというと、結婚イコール幸せ、ゴールインという考え方がそもそも若い世代にはない。なぜかというと、やっぱりお金がかかるくらいなら、今すごく経済が悪い中で、お金がないなら自立して経済的にゆとりを持った一人の生活もありなんじゃないか、今はいろんなサービスがありますので、別に結婚しなくても幸せという方法はいろいろあるよねと考えている人たちが多いと考えています。

なので、そういう方に向けて、小西さんの事業のような、生涯においてお互いを高め合う夫婦像といいますか、経済面ではなくて精神面でのメリット、お金がないから結婚するのではなくて、すごく精神的に豊かになりたいから結婚したいという考え方をされていく必要があるんじゃないかと思っています。なので、小西さんの言う、今回の小西さんの倖学の事業のように、ある程度年代を、経済的にも豊かな生活を送っていらっしゃる方というのも一つ方法としてありますでしょうし、さまざまな理想の夫婦像というのは皆さんの中で、いろんな人の中であると思うので、そういったさまざまなターゲットに対して具体的な、こんな夫婦はすてきじゃないかという提案をしていく事業がこれから必要なんじゃないかと思っております。

私の提案は以上です。ありがとうございました。

【喜多浩一総務常任委員会長】

ありがとうございます。

続きまして、埒様、よろしくお願いいたします。

【埒正浩株式会社日本海コンサルタント専務取締役】

日本海コンサルタントの埒と申します。よろしくお願い申し上げます。

私は、都市計画とまちづくりのプランニングやコーディネートをやっております。今回は、「人口減少時代に対応するためのまちづくり」というお題がありましたので、ことし３月に金沢市のほうで集約都市形成計画をつくられました。この策定に弊社も参画しておりましたので、それを踏まえてきょうはお話をさせていただきたいと思います。

次のスライドは、よくごらんになってらっしゃるグラフだと思いますが、人口が伸びています。しかしながら、この人口はどんどん市街地を拡大させているということも一方であるということをお話ししたいと思います。

次のスライドですが、1950年の市街地は、赤い線でくくったところです。これ

が今このように、土地区画整理事業という事業手法によってどんどん郊外に市街地が広がっていったわけであります。旧市街地ではほとんど整備は行われませんでした。

次、先ほど御説明がありましたグラフですが、これから人口はどうなるのかということで、市の人口ビジョンでございます。2060年には34万6,000人になると社人研は言っておりますが、市としては人口ビジョンで43万2,000人にしたいということで、８万人くらい上乗せしたいということになっています。果たしてこのとおりに本当になっていくのか、そのためにはどうすべきかということがポイントかと思っています。

先ほど中山先生から交通の話がありましたが、一方で金沢の市民は、ちょっとデータが古くて恐縮ですけれども、パーソントリップ調査というものがありまして、平成19年のデータを見ると約７割の方々がほとんど車で移動されてるんですね。公共交通を利用されている方は年々減っているのが実態でございます。いつまでもこの車に依存したスタイルでやっていけるのか、今後、高齢ドライバーがふえてきますので、事故の増大もあるんじゃないかという不安もございます。

人口が減るとどうなるんですか、何が心配なのということですけれども、やはりまちの活力が低下することは必須だと思ってます。それから生活もだんだん不便になっていくのではないかと思っております。例えば空き家、空き地がどんどんふえますし、公共交通ももしかしたら、乗る人が少なくなると廃止されるのではないでしょうか。生活利便施設――商店や病院ももしかしたら減るのかもしれません。コミュニティーの希薄化も心配されるところであります。

では、これからまちをどうするのかということですが、先ほど冒頭に申し上げましたように、これまでの市街地はどんどんどんどん郊外に向かって広がってきたところでありますけれども、広がったものを全て戻すことはなかなか難しいのですが、少しダイエットしていくべきではないか、住む場所や各施設の配置を適切なところにもう１回誘導していくことが必要かと思います。

これは2009年に市の都市計画マスタープランに入れられた図でございますが、左側が広がった市街地、右側がこう、手がきゅっとなったような図がありますけれども、中心市街地に向けて公共交通重要路線をつくって、そしてダイエットしていくようなイメージをしております。

これらを踏まえて、次のスライドですが、このようなプランニングを行いました。将来都市像として「持続的な成長を支える『軸線強化型都市構造』への転換」。この「軸線強化型」というのは、公共交通の重要路線をしっかり強化して、その沿線沿いに住んでいただきましょう、またはまちなかに住んでいただきましょうということです。しかしながら、一般居住地のところから急に住みかえることはなかなか難しいのですけれども、例えば将来、御高齢になられたときに車の運転もなかなか難しいなとなったら、そしたら、それは公共交通の利便なところに住

みかえてはいかがでしょうかという選択肢を与えるということかと思っております。今後、その土地利用と交通の両面から都市の使い方を見直す必要があるんじゃないかと私は思っております。

都市計画ではこのような形になっているんですけれども、集約都市を推進してさらにまちづくりに磨きをかけることが必要かと思います。そして移住・定住を促すのですが、私、きょうのためにこのスライドをつくったのですけれども、しかしながら、さっきの集約都市計画は市街化区域のみを対象とした計画なのでございます。そうすると、調整区域にお住まいの方、または中山間地にお住まいの方はどうするのということになりますので、ここではこの「小さな拠点」と書きましたが、そういったところにもやはり一定の利便施設を置いて、そこでもちゃんと住んでいただくことが大事じゃないか。でないと、やっぱり山とかそういったものは守れないことになるのではないかと私は危惧しております。この小さな拠点を提案したいと思います。

きょう、このような形でまちづくりの議論をしていただくことは非常にいいことだと思います。しかしながら、市民の方、または企業の方、それから行政の方、またいろんな方々が、まちづくりのこれからの金沢の進む方向はどっち向いてるんだろうというのは、もしかしたら皆さん一定の方向ではないかもしれません。皆さんと議論をする中でその方向性を収れんさせていく。ここでは「ベクトルを揃える」と書きましたけれども、そういった行為が必要なのではないか。それによって金沢市がこれから目指す、目指すべき都市像をみんなで共有していくことが大事だと思っております。

最後に、そういったプランができたとしても、きょうは議会の皆様でございますので、しっかりその評価や検証が大事だと思ってます。プランはできました。先ほど軸線強化型都市構造ということで集約都市形成計画をつくられましたけれども、これをしっかり実施しなきゃいけないと思います。

一つ、居住のところでは、まちなかとか公共交通重要路線のところに本当に移住していただけるのか。それから交通については、新しい交通システムが導入できるのか。それからにぎわいということでいうと、中心市街地にその都市機能がもっともっと高まっていくのか、集約していくことができるのかということがポイントかと思います。

評価ですが、やはり５年に１回程度いろんな調査をかけて、しっかりダイエットしていくような都市になっているのかどうかを見ていただく必要があると思います。そしてそれを踏まえて、必要であれば改善も必要なのではないかと思ってます。

このような形で、ＰＤＣＡをしっかり回しながらこの都市づくりを語っていくことが大事なんでないかと私は御提案させていただきたいと思います。

以上であります。

【喜多浩一総務常任委員長】
ありがとうございました。
次に、中田様、よろしくお願いいたします。
【中田雄一氏】
よろしくお願いします。中田雄一です。
僕は北海道出身なんですけれども、工房を兼六園とひがし茶屋街の間の材木町に構えております。そこに構えて今ちょうど７年になるんですけれども、昼間の時間、地域で見守りながら仕事をしているという立場でちょっとお話しできたらと思います。あと、ちなみに子どもが１人と妻と３人暮らしです。
もうほとんどしゃべることはないのではないかというぐらいすばらしいお話があって、僕の中では、新しいものをつくるということは金沢においては意外と余り心配していません。ただ、移住者として一番気にかかっているのは、割とこの金沢という地域は、多分、昔からその都度その都度いいものを提案して新しいものをつくってきたまちだととても実感しているんですね。その中で、今機能していないことや整理しなきゃいけないことを、実際に地域で暮らしている中で感じたことを数点話したいと思います。
今までのお話の中で出てなかった中では空き家の件ですね。ちなみに、材木町は今、ゲストハウスが物すごくふえてます。それと駐車場ですね。どんどん空き家がふえていく中で､町会というか班の運営がだんだん難しくなってきています。町会費は強制権がないので払わなくてもいいとか、購入者が県外の方だったり海外の方もいらっしゃいますので、町会の機能がだんだん薄くなってると感じています。
あと、僕のように、移住者として金沢で工房を構えたいという人が結構相談に来たりします。実際、材木町も空き家だらけなんですよね。でも、家を売ったりするということはやっぱり恥ずかしいという何か地域性があるのか、売りたくない人が結構多いです。家がなくなったと思うと、駐車場になるところが多かったり、人が欲しがってもそういうようなちょうどいい形で空き家が提案されてないと最近思っています。
あと、僕は、今36歳なんですけれども、この年代で家に暮らしながら仕事をしてるって意外とまれだと思うんですね。地域の中の問題点とか、地域の中で自分ができることを見つけるのが割と難しい。でも実際、この年代が地域に使う時間が１時間でも２時間でもあれば、すごい地域って明るく変わっていくんじゃないかなとすごい思ってるんですけれども、特に情報と手間というか、市役所も自分の欲しい情報を得るためにいろいろ回らないと得られなかったりもしますし、回覧板がそれをケアしてくれてるかといったらそうでもない。何か今、昔からあって役立ってきたものが役立っていないんだったら新しい仕組みに変えたりとか、そういうのもすごい必要なんじゃないかなと思ってます。

例えば、公民館事業や学童は、物すごい子どもを大事にしようとか地域大事にしようという、最初はその熱意が地域を動かしてたんだと思うんですけれども、今、ここの公民館いいよねというところは結構少ないと個人的には思うんですよ。皆さん結構やりくりに困ってたりもしますし、実際、公民館で何をやってるかを知らない若い世代も多いです。材木町は公民館と児童館があるんですけれども、児童館があることを知らない若い方も、移住者の方ではいるので、こんなところにこんなすてきなサービスがあって、金沢に昔から住んでる方には当たり前のことをわからないというか、気づくきっかけが少ないのが事実なのかなと思います。

あとは、金沢はとても一方通行が多いまちなんですけれども、高齢化と観光化の中で、観光者と高齢者による逆走車が実に多いという、わかってて逆走している方も中にはいるんですけれども、本当に危ないというのが正直な意見でありまして、あとはひがし茶屋街周辺では、まちのりとか盛んにやってますけれども、渋滞が多いところの道路標識のラインがすごい消えてるんですね。そういうものに対してのケアというか、新しいものをつくる後のケアを誰がどういう判断でやっていくかというのも物すごい大事なのかと思います。

移住をふやし、人口減少を食いとめようと思うと、どうしても新しいものってなってしまいがちなんですけれども、温故知新といいますか、昔からあったものの中にこそヒントがあって、逆に整理することで金銭的な面でもスペースが生まれて新しいものに投資できるとか、上乗せではない新しい仕組みを金沢はすごい提案しやすいまちだなと僕は思っているので。

何か拙い意見になってしまいましたけれども、こういう形で一応意見としてさせていただきます。

以上です。

【喜多浩一総務常任委員長】

ありがとうございました。

・専門家などとのテーマに関する意見交換

【喜多浩一総務常任委員長】

それでは、ただいまの御意見を踏まえまして、専門家の皆様と各常任委員会とで意見交換させていただきたいと思います。

発言される方は、挙手をお願いいたします。

【坂本泰広市民福祉常任副委員長】

皆さん、ありがとうございました。

市民福祉常任委員会の副委員長をしております坂本といいます。

私は小西さんと中屋さんに、今回のこのことについて幾つか御質問したいと思います。非常に興味深い内容で、また企画された方、参加された方の立場としていろいろ意見を聞きました。

小西さんにですけれども、今回、ターゲットを非常に絞ったということで内容的にはやりやすかったのかなということは聞いていて思いました。世の中、大多数の晩婚化している全体を当然カバーしているわけじゃなくて、あるターゲットがはっきりしたものに対して今回は取り組んだということだと思うんですけれども、これを今後、いろんな年齢層や職業も含めて広めていくに当たっての、何かヒントが御経験上あればお聞かせ願いたいのと、もう１点は、そういったことも通じて行政に望むことをお聞きしたいと思います。

中屋さんになんですけれども、参加していろんな御感想を聞かれたということなんですけれども、その中で、今は仕事していたいんだというお話がありました。仕事か結婚、子育てかみたいなことを選択するというのがあったんですけれども、例えば仕事も子どももみたいな選択肢をしようとした場合に、どういったことが問題となるのか、あるいはその壁となるのかというものがあればお聞かせ願いたいなというのと、今の小西さんにお聞きしたのと同じように、そういったことを通じて、行政の役割といいますか、行政ならではの期待することがあれば簡単にお聞かせ願えればと思います。

【小西敦子株式会社ワードローブ代表取締役】

まず、１点目のターゲットを今回は絞った、これから広げていくためにはどうしたらいいのかというお話なんですけれども、今回、私どもが募集をかけたときに御案内させていただいたものは30歳以上ということだけです。だけれども、きちんとターゲットを絞ることができたのはなぜかというと、文言、例えば言葉の表現がそのターゲットに届きやすい影響言語であるとか、またはこのパンフレット、リーフレットの色合いがそのぐらいの年齢層の方々がお好きなスタイルをとっているであるとか、または「男と女」というこの文言なんですけれども、フランス映画の、1960年ぐらいに上映されたヒット映画なんですが、そういったニュアンスが好きであるというような方々の心理というものも突いて、ターゲットを絞ることができたと思ってます。ですので、言葉の表現をもっとやわらかくするとか、こういったリーフレットをもっと明るくするとか、その年齢層に合わせた、心理的にひっかかるような、そういったアプローチの仕方をしていけばさまざまな年齢層に向けて届けることもできるでしょうし、ターゲットはいろいろな形で絞っていくことが可能だと思っています。それもまたこれから先は必要だとは思いますが、今一番手を差し伸べたいと私が思うのは、やはり30代の方々、40代の方々の本当に生活的にもきちんとされていて、それでいて女性の方々は子どもを産む後半になってくる年齢層なわけです。ですから、そういった方々が幸せな未来を歩めるような、そこに今回はまずフォーカスさせていただきました。

そして行政に望むこと、２つ目の御質問なんですけれども、きょうはこの金沢市議会の大変に影響のある方々にお集まりをいただいていて、ぜひ皆さんにお願いをしたい、そして市民の皆様にもお願いをしたいと私が思うのは、きょうこの

場でこの話を聞いた方は、皆さんこれから「婚活」ではなく「倖学」と言っていただきたい。こういった取り組みがあるんだということをお伝えいただくその一つのきっかけになるかと思いますし、金沢市というのは、婚活という出会いの場を提供するという考え方もあるけれども、倖学という新しい考え方、今からの未来に向けての考え方という婚活のシステムだってあるんだということをいろいろな方々にまずはお伝えをしていくことが大切かなと思っています。

また、行政の方に一つお願いをさせていただきたいことがもう一つあるとすれば、私はこの金沢の倖学という考え方は観光資源にもなっていくと思っています。それはどういうことかというと、今回、九州プラス山口県の９県合同で、一つの地域でまとまって東京で婚活プロジェクトを行いました。それは何かというと、東京にいらっしゃる方々が九州の魅力を知って、九州に移住してくれる、そういう流れをつくっていこうということで、渋谷のヒカリエホールで144名の男女が集まってイベントが行われたと聞いています。私はこのイベント、東京ではなくて金沢でできると思っています。金沢であるならば、観光ということと男女の学びということと、また出会いであったり仲間ということをキーワードとして全国から旅も、プラスアルファ情緒というところで楽しんでいただけるような、そんな観光資源になっていく、そういうブランディングができていくのではないかなと期待しておりますし、そういう働きかけをこれからもしていきたいと思っています。ですので、ぜひ行政の皆様方には、こういった新しい取り組みの未来に期待をしていただく、そのお支えをひとつよろしくお願いさせていただきたいと思います。

ありがとうございました。

【中屋麻衣子株式会社カラフルカンパニー本社編集部メディア制作課主任】

私からお話させていただけることは、私の個人の意見といいますか、実際、私も33歳の未婚で仕事をしているという状態なんですけれども、仕事と子どもが両立できない理由、そもそもできてる方はできてると思います。実際に弊社のほうでも30代の女性でお子さん３人を育てながら弊社でばりばり働いてる方もいらっしゃいますし、できる方はもちろんできると思います。ただ、それをしたくないと思ってる人が多いという感じです。お仕事が優先で別に子どもは後でいいかな、子どもは別にいいかなと思っている方がやっぱり、仕事を大切にしている世代、人たちに多いという印象です。

では、なぜ子どもが必要なのかというところをやっぱりフォローしていく必要があるのかと思います。それが行政のほうに期待することということにもつながるかと思うんですけれども、そもそも子どもを産もう、結婚しよう、それが幸せなんだよという考え方が今の世代にはないというか、それの何が幸せなのという感覚なんだと思うんです。というのは、情報とかサービスがすごく飽和状態にいっぱいある中で、ＳＮＳとかもたくさんある、情報がいっぱい入ってくる中で、

それ以外の幸せもたくさんあると感じている方もいっぱいいらっしゃると思います。という中で、じゃ、結局は個人としてどう生きるかを深く自分の中で個人個人が考えることがこれから必要なんだと思います。流されて生きていくわけではなくて、個人がこれからどうやって生きていくかを考えるきっかけづくりというのが、もし行政にお願いできることとすればあるのかなと、個人的にはそう思います。

以上です。

【坂本泰広市民福祉常任副委員長】

お二人の意見の中で共通するところで、倖学に関して、今、中屋さんがおっしゃったことでも、夢って今ちょっと持ちづらい世の中なのかなというふうに思いますので、それは物も情報もあふれているせいで夢のレベルが上がってしまっているのかなと思ったりもしますけれども、今後の参考にさせていただきたいと思います。

ありがとうございました。

【喜多浩一総務常任委員長】

もう一人、いいですか。

【小間井大祐総務常任副委員長】

佐無田先生のお話は20代、30代、まさに若者の人口移動や定住がテーマでございました。中田さんもまさにその世代だと思いますし、またそういった若い世代が減少することで地域経済ももちろん縮小していきますし、地域の祭りや行事も開催できなくなってコミュニティー活動がすごく衰退していくことを考えると、私たち全ての世代にとって、市民にとって、市民生活を豊かにしていくためには地域社会を支える若い世代が定住できる環境をしっかりと整えていかなければいけないというお話だと思います。その定住の環境を整えるという要素はさまざまで、きょうまさにお話いただいた、もしかしたら男女の出会いや学びの場かもしれないし、都市構造や交通網もそうですし、また仕事もすごく大切だと思います。

佐無田先生の御専門でぜひちょっとお伺いしたいと思うのが、仕事のもとになってる産業の構造もすごく変わってきたことをこのデータを見て感じたんですけれども、まさに観光が新しい産業として伸びてきたので、飲食や宿泊や小売や卸売業の転入がふえているのかと思います。逆にこれまで金沢の産業を支えてきたものづくりが転出に向かっているということなんですけれども、これからの金沢、今の状況も含めて、新幹線も少し落ちついて、これからどうやって金沢の経済を整えていって、産業を整えて、若い世代が来てもらえるような、そういう経済、産業を整えていくかというところのヒントというか、佐無田先生のお考えをお聞かせいただけないかと思います。よろしくお願いします。

【佐無田光金沢大学人間社会学域教授】

この５年間で結構予想以上に転入のほうに振れたんですよね。新幹線の影響は

一部あると思いますけれども、全般的に金沢の景気はよかったところがあって、今もそれが結構継続しています。産業構造の面では、製造業、ものづくりは周辺の地域を含めて意外と頑張って残っていますけれども、やっぱりサービス産業化はどんどん進んできていて、いろんな業種でサービス部門に変わってきたりとかしている部分もあるかと思います。これからの景気は、余り拙速なことは言えないんですけれども、金沢は結構持続するんじゃないかというふうに見られていると思います。

その結果、恐らく現象として起こってくるのは、人手不足がまだまだ深刻ですので、特にホテルなんかがこの先結構ふえてくるわけなんだけれども、ホテル業界とかは人手不足が激しいところですね。ホテル業界、医療・福祉、こういうところは人が足りないというところが強まってきて、どういうふうになっていくか、もうちょっと注意が必要なんですけれども、恐らく賃金が上がらざるを得ないと思います。地元の中小企業はこの賃金が上がる状況にどれだけ対応できるか。恐らく賃金を上げないと人が出ていってしまうというふうな状況に地元の中小企業はなってくると思いますから、経営はより賃上げに対応できるようにしてかなきゃいけないだろうと思うんですが、そうすると、恐らく賃金が上がると外から人が入ってくるのがもうちょっとふえるんじゃないかと予測されます。今でも全国的にみんな人手不足なんですけれども、北陸の景気はその中でもいい方向だと思いますし、首都圏からの地方回帰の現象も多少なりともある中で、北陸は新幹線効果もあってもうちょっと、もしかしたら転入の傾向が続くかもしれないなというふうに思います。拙速なことはまだちょっと言えないんですが。

そうしたときにどうなるかというと、金沢の一つの課題としては、結構賃金が低いんですね。全国的に見ても、平均的に言うと賃金が低いので、これがどういうふうに上がっていくかというところは、中小企業が多いですから課題ではあるんです。一方で、だから結構人口減少という話をしていましたけれども、むしろ転入してくる人たちとかにどういうふうにちゃんと対応して、維持していくかという話が出てくるかもしれないですし、人の育て方が論点になるかもしれないですね。今、企業のほうは忙しくて、仕事も多くなってきてますし、しかも人を育てる人がいない。今までオン・ジョブ・トレーニングで企業内訓練だけでやってきたのが多くの企業の実態なんだけれども、これが回らない。ということは、人は雇わなきゃいけない、賃金も上げなきゃいけないんだけれども、能力の上昇が追いつかないという状況が想定されるんですね。研修が一つ課題になるんじゃないかと思います。

今、倖学というおもしろい話をされたんですけれども、片一方で、例えば低所得者の方にターゲットを当てて倖学システムみたいなのができるのかをちょっと考えますと、やっぱり仕事が一つのネックかなと。特に低賃金男性のほうが、自信もないしなかなかそういう場にも出てこれないということもあるでしょうし、

一つは社会人の仕事をしていく能力形成みたいなところを、かなり広範なレベルでやっていくことが課題になるのではないかと思います。いろんな機会を通じて学びながら自己研さんを積んで、やっぱり仕事とかかわると思うんですよね。その仕事づくりをできるとか、結婚もしたいんだけれども、まず自分の仕事の能力形成とかのプロセスが見えていく話が重要で、しかもこれは、今までのようにサラリーマンみたいに研修していくのと違うのかもしれないですね。かなり非営利的な仕事であったり、片一方で半分サラリーマンをしながら、半分自主的なことをしながら、半分は社会的なことをしたりみたいな、いろんな働き方があり得るので、そういうニーズに応える社会の研修・教育システムをまちとしてどういうふうにつくっていくのかみたいなことは、この先の大きな課題になるかもしれないと思ってます。

【小間井大祐総務常任副委員長】

ありがとうございます。

・市民とのテーマに関する意見交換

【喜多浩一総務常任委員長】

引き続きまして、本日のテーマと専門家の皆さんの御意見を踏まえまして、市民の皆さんからも御意見をお聞きしたいと思います。

意見交換に当たりまして、幾つかお願いしたいことがあります。一つ、発言を希望する方は挙手をお願いいたします。私が指名しましたら係員がマイクをお持ちしますので、お住まいの町名とお名前を言ってから、できるだけ端的に御発言願います。また、本日の意見交換会の内容は、後日、金沢市議会のホームページに掲載いたします。皆様方からいただきます御意見につきましても掲載させていただきますので、あらかじめ御了承願いたいと思います。

それでは、本日のテーマ「人口減少社会に対応するためのまちづくり」について、専門家の方からいろいろ御意見をいただきました。それについてまたいろんな考えがありましたら挙手のほうをお願いしたいと思います。

【参加者】

きょうとも知れぬ、あすとも知れぬ年になってきました。

このビジョンを見ると、どこの自治体の選挙なんかでも必ず、若い人が住みやすいとか、若い人たちに来てもらいやすいということがテーマに上げられます。しかし、私みたいに滅びていく者が住んでよかったというまちをつくっていきたいという方が、どなたもいらっしゃらないことが、私、非常に寂しく感じております。

以上です。

【喜多浩一総務常任委員長】

ありがとうございます。

【参加者】
大変すばらしい話を聞かせていただきましたし、こういう会に初めて来ました。
私が一番気にしてきたのは金沢市の都市構造の見直しで、きょうはコンパクトシティーの話がありそうだと思って来たんです。そうすると、先ほど日本海コンサルタントさんの話を聞いてましたら、最後の最後になって小さな拠点づくりが必要だということを聞いただけで、きょうは心落ちつけてうちへ帰れるかなと思っております。
今、人が少ないから学校統合、子どもがおらんから保育所の統合、そんなことばかり金沢で何年間かしてきたわけです。それで本当にこれからまたこの中心地へ全てを集めようと。その裏には、先ほどおっしゃった安心して生涯を終えるような金沢でありたいことを願っており、やることとすることが違っていると私は思うんです。これをどうのこうのせいというのではなくて、今この構想をどういうふうに議会として、辺地の人はイノシシだけ守っとればいいぞという考えなのか、それとも、いや、今おっしゃった小さな拠点づくりで何ができることがあるのかを考えていただけるような議会であってほしいという私の思いでございます。
これは意見というより思いでございますので、ひとつそのようにお願いできたらなと思っております。よろしくお願いします。
【喜多浩一総務常任委員長】
ありがとうございます。
【参加者】
本日はありがとうございました。
私は２カ月前に結婚して金沢市に移り住んできましたので、倖学の参加はできないんですけれども、ぜひ倖学を、結婚を目的とした人だけでなくて、結婚をした後、何かいろいろ学びもしたい人とか、もっと20代前半とかの結婚はまだ考えていないけれども、何か同じレベルの人とかふだんかかわれない人と出会いたい人のためにもそういう講座を設けていただきたいと思っています。よろしくお願いします。
【小西敦子株式会社ワードローブ代表取締役】
本当にいいことを言ってくださって、ありがとうございます。
倖学というのは、導入としては婚活の出会いの部分かもしれないですけれども、一生涯、人間が学ぶべきことだと思ってます。なぜそう思うかといえば、私自身がコミュニケーションのトレーナーをしていて企業研修なども行っているんですけれども、企業研修でビジネスに対するコミュニケーションについて話しているにもかかわらず、男性の頭の中には、うちの奥さんとうまくいってないのはそういうことだったんだということをひらめいたり、そういえばコミュニケーションをきちんと御主人にやってないとか、子どもに対するかかわり方がこういうふうによくなかったからこういったことが招かれたんだというふうに、家庭のことを

イメージされる方がすごく多いんですね。ですので、結婚する導入のところももちろん大事なんですけれども、そこから先、人間が最後に幕を閉じられるまで、全てずっと男と女で幸せであったというふうに思えるような学びの場を提供できるように頑張っていきたいと思います。

ありがとうございました。

【喜多浩一総務常任委員長】

少々時間は余ってるんですけれども、ないようでしたらこのあたりで閉めさせていただきたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

それでは、ここで終了させていただきたいと思います。

なお、受け付けの際、アンケートをお渡ししましたので、お手数ですが御回答をお願いしたいと思います。アンケート用紙と鉛筆を受付にお渡しください。

４．閉　　会

【喜多浩一総務常任委員長】

閉会に当たりまして、金沢市議会副議長の秋島太から、御挨拶申し上げます。

【秋島太副議長】

本日は、皆様から多くの御意見、また御提言をいただきまして、本当にありがとうございました。皆様の御協力のもとで活発な意見交換会ができたことを感謝申し上げます。

きょうは、「人口減少社会に対応するためのまちづくり」という本当に幅広いテーマで議論をさせていただきました。いただいた御意見や、また御提言が全てがかなうということは難しいかもしれませんけれども、私たち議員一人一人がこの問題を真摯に受けとめて、その実現のための方策をこれから議論して、しっかり一つでも多く金沢市政に反映していきたいと思っております。これからも忌憚のない御意見を皆様からお寄せいただきまして、市民の皆様とつくる金沢市政をしっかりやっていきたいと思っております。

きょうは本当に遅い時間、またお疲れのところ、たくさんの方に御参加いただきましたことを感謝申し上げまして、きょうの閉会の挨拶とさせていただきます。

本日は本当にありがとうございました。（拍手）

【喜多浩一総務常任委員長】

それでは、皆さん、お疲れさまでした。これで意見交換会を終わらせていただきます。

本当に皆さん、ありがとうございました。

以　上